

新しん 緑みどり ニュース

病院の理念

確かな医療技術
やさしい対応
地域への貢献

さんきかい よこはましんみどりそうごうびょういん
医療法人社団 三喜会 横浜新緑総合病院
〒226-0025 横浜市緑区十日市場町1726-7
TEL. 045-984-2400 (代表) FAX. 045-983-4271
発行 地域医療連携室 TEL.045-984-6216 (直通)



コロナよ さようなら、今こそ人間ドック・健診を

人間ドック・健診センター長 副部長 武 仁



<コロナがもたらした人間ドック・健診への影響とは？>

新型コロナウイルス感染症（以下コロナ）が広がり始めて3年。自由な外出ができない時期がしばらく続きました。運動不足や飲酒量の増加で体を悪くしたり、健康診断を自粛することで病気の発見が遅れたりするのは、との懸念が当初よりありましたが、コロナへの対応や圧倒的な不安にかき消されて、そんな取るに足らない（？）懸念は隅に追いやられていたように思います。人間ドック・健診は「不要不急」の扱いとされ、当センターも約1か月の閉鎖を余儀なくされました。その後もコロナ感染者が増えるたび、受診は「自粛」されることになりました。

<コロナ禍で不健康になった？>

ではコロナ禍の生活で私たちは不健康になったのでしょうか？予想通り、精神状態の悪化や高血圧性疾患の発症例の増加が顕著であったとの報告がありました（海外のロックダウン）。また、日本人間ドック学会によれば体重、血圧、血糖、脂質、肝機能などが悪化したとも報告されています。

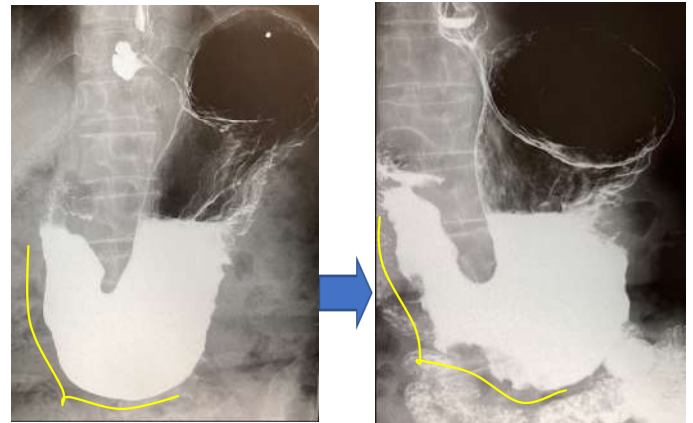
ところが反対に、我が国ではむしろ生活習慣が改善し、健康意識が高まったという報告もありました。感染状況が海外ほど深刻でなく、仕事に追われる日常をリセットする機会ともなったということでしょう。

<病気の発見は遅れなかったのか？>

一方、がんに関する限り事情は異なっています。従来がん検診は、がんの早期発見に大きな役割を果たしてきました。日本人間ドック学会の報告によると、2017年の全国がん登録では、上皮内がんを含む23%が検診で見つかっています。ところが2020年のがん検診者数は30%以上も減っており、がんの早期発見が明らかに遅れたという指摘があります。当センターでもそのことを痛感する実例がありました。

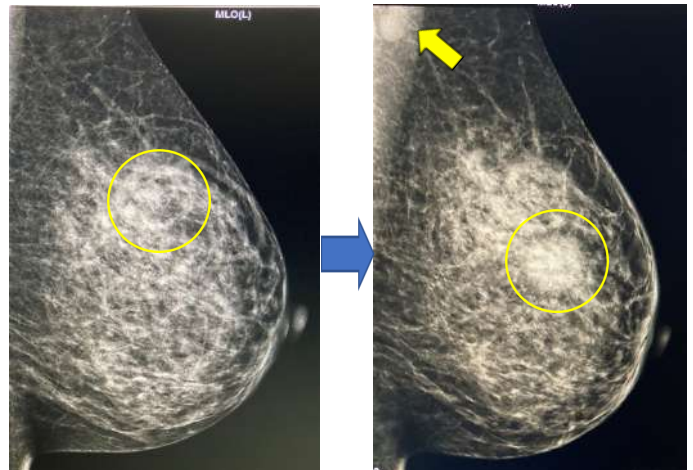
図1は胃、図2は乳腺のX線写真です。左側と右側でコロナ禍の前後を比べています。

図1



きれいだっただの胃の輪郭が崩れ、形が変形するほど胃がんが進行していました。

図2



コロナ禍前にはなかった大きな腫瘍（乳がん）が出現していました。わきの下のリンパ節にもがんの転移が疑われました（黄色い矢印）。

やはり、コロナだからといって、がんが待ってくれたわけではありませんでした。

<今こそ人間ドック・健診を>

コロナの対処で精一杯だった当時はやむを得なかったことですが、「もし、あのときに調べてもらっていたら…」という気持ちはぬぐいきれません。長かったコロナ禍が去り、着実に日常を取り戻しつつある今こそ、ぜひ人間ドック・健診センターをご活用いただきたいと思います。



日本内視鏡外科学会 技術認定制度 大腸部門で技術認定を取得

横浜新緑総合病院 外科・消化器科 部長 大塚 亮

この度、日本内視鏡外科学会が定める内視鏡外科技術認定医制度 消化器・一般外科領域 大腸部門で技術認定をいただくことができました。

手術を含めた医療はチームで成り立つもので、同僚・手術室・病棟・検査室・事務方などかかわる全てのスタッフの協力があってのものです。今回の結果はその支えがあってのことであり、スタッフの皆さんに感謝と誇りを感じ、私たちのチーム医療が認められたものと受け止めております。

そして、それはよりよい医療を地域の皆さんに提供することにつながると信じております。今後も引き続き、尽力してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



日本内視鏡外科学会 技術認定制度とは？

この制度は、低侵襲である一方、特殊な術野で特殊な器具を用いて行う内視鏡外科において、後進を指導するにたる所定の基準を満たした者を認定するもので、これにより本邦における内視鏡外科の健全な普及と進歩を促し、延いては国民の福祉に貢献することを目的とするものです。



部門紹介 2023 | 医事課・外来係

医事課 外来係 主任 高木 夏紀

外来係の業務には大きく2つの役割があります。ひとつは「窓口対応業務」で、会計、診療の受付・予約、書類の受付、入院患者様のご家族対応などを行っています。毎日500人前後の外来患者さまが来院されますが、お一人お一人に丁寧で正確な対応を行い、安心して受診していただけるよう心掛けています。

もうひとつは「診療請求業務」で、診療報酬、労災、自賠責、ワクチン接種など多岐にわたり、行った医療行為をそれぞれの書式にまとめて請求しています。診療報酬には国が定めた細かいルールがあり、さらに2年毎に改定されるため患者さまには分かりにくい内容もあります。適切な請求と患者さまへの分かり易い説明に努めていますので、ご不明な点がございましたらご遠慮なくお尋ねください。



救急隊勉強会開催

2023年5月12日に、救急隊勉強会を実施しました。

「民間人が行った救護活動～あなたは自然に参加できますか～」のテーマで松前院長が講師を務め、横浜市内外から118名の方にご参加いただきました。

2005年JR西日本福知山線の脱線事故を題材に、民間人の救護活動エピソードを交えて救急医療の課題などを解説しました。

近畿圏ではじめてトリアージタグ（治療の優先順位をつける識別票）が使われた大規模事故でありながらも、民間人の懸命な救護活動が多くの方々の命を救いました。

今回は普段の救急症例ではなく、民間人の救護活動を取り扱った本勉強会。参加した救急隊からは「普段と異なる視点で救護活動をとらえる事が出来た」などの感想をいただくことが出来ました。



WEB版みんなの健康講座

※オンライン配信

病気や健康に関する情報を発信しています。Web版みんなの健康講座はホームページ、スマートフォン（QRコード）からいつでもご視聴いただけます。

